

**みやぎNPO夢ファンド(A) 組織開発(人材育成を含む) 支援プログラム
平成20年度助成事業 最終報告書**

書式 4

2009年4月30日

団体名	特定非営利活動法人ワンダーポケット
事業名	ワンダーポケット組織強化活動
連絡担当者お名前(ふりがな)	千葉 哲史(ちば てつふみ)
<p>助成金を使って行った研修事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)</p> <p>***はじめに***</p> <p>当団体は、設立から6年が経過し、2007年には2つの新規事業を立ち上げるなど活動は軌道に乗りつつあります。しかしながら、組織の中では、活動の中心となる事務局、運営委員、ボランティアなどのマンパワーの不足やそれぞれの役割の部分で組織の力を十分に発揮できていないといった大きな課題を抱えておりました。そんな中で今回の組織開発(人材育成)支援プログラムの助成金を活用して行ってきた活動は、当団体が抱える課題を浮き彫りにしながらもひとつひとつ解決の方向へと導き、理事や運営委員、事務局、ボランティアといったそれぞれの立場の人たちが改めて自分の役割を考え、もっと「積極的に」、「やりたい活動を」、「できる範囲で」「一生懸命にやる!」という気持ち呼び起こす機会となりました。</p> <p>そして、設立当初の理念や思いに立ち返り、病気のお子さんとその家族やきょうだいたちのために、より必要とされる支援を行なっていきたいと考えております。事業年度を終えた今も、活動しやすい団体づくりを目指して動いている最中です。このような事業を行う機会をいただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>1. 「すべての子どもに命の輝きを」 特別講演会の実施</p> <p>***開催の目的***</p> <p>当法人の理念や活動を広く一般の方にご理解いただくため、啓蒙活動および組織強化活動の一環として講演会を開催しました。講師は、生まれたときから重度の重複障害と疾病を持ちながら、13歳で筆談を覚え、「きもち」を言葉にすることができるようになり、初めての著書を発刊した大越桂さんに依頼しました。参加者全員に当団体の活動を紹介したリーフレットとボランティア募集チラシを配布し、新規会員とボランティアの募集も呼びかけました。</p> <p>日 時：2008年6月14日(土) 14:00～ 場 所：仙台厚生病院 熊谷・海老名ホール 講 師：大越 桂さん 大越紀子さん(桂さんのお母様) テーマ：「きもちのこえきこえますか」</p>	

助成金を使って行った研修事業について、具体的にご記入ください。
(事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)

参加者：約60名
運 営：ボランティア
 スタッフ
新規会員：2名 ボランティア希望者：2名

添付資料／①講演会チラシ
 ②ボランティア募集チラシ



<講演会の様子>

2. きょうだいの会「スタッフ専門家研修会」の実施

研修の目的

2007年にスタートした、病児や障害児をきょうだいに持つ子どもたちを支援する活動である「きょうだいの会」は、回を重ねるごとに、子どもたちへの心理的ケアの必要性や、子どもたちが置かれている環境や心理を理解し、適切な支援を行うために、専門的な知識が必要だと感じるようになりました。そこで、きょうだいの会に参加するボランティア、スタッフを対象に、必要な知識を共有し、皆が同じ目的のもとに活動に臨むことができるよう専門家による研修を企画しました。

<第1回研修>

日 時：2008年8月9日(土)

13:00～16:00

場 所：宮城学院女子大学 第二講義館

講 師：宮城学院女子大学発達臨床学科教授 足立智昭先生

内 容：「病児や障害児のきょうだいの心理的適応と援助のあり方について」

概 要：病児や障害児をきょうだいに持つ子どもの心理、また親の心理的社会的特性について具体的な事例と共に学びました。実際に子どもたちや親御さんたちに接していく上で必要な知識であり、きょうだいの会に携わるスタッフが、理事、運営委員、事務局、ボランティアという立場を超えて、一緒に研修に参加し、共通の思いを持つ好機となりました。さらには、この問題がいかに重要な課題であり、家族のケアは、本人の病気のケアと一体となって取り組む必要性が高いもので、研修参加者全員がこの活動の一助となる「きょうだいの会」の必要性を再認識することとなりました。

参加者：13名(内訳：ボランティア5、一般1、理事3、運営委員2、事務局2)

感 想：別紙参照



<<第1回きょうだいの会スタッフ研修会>>

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

<第2回研修>

日時：2008年8月23日(土) 13:00～16:00

場所：宮城県啓祐学園

講師：共愛学園前橋国際大学 松本学先生

内容：「自尊感情とコミュニケーションスキルを高めるためのワークショップ」

概要：可視的変形者への発達の支援をテーマに、同じように自尊心の低下などの問題を抱える病児や障害児のきょうだいたちの支援のあり方について、ワークショップを体験しながら具体的に学びました。コミュニケーションの大切さと同時に、相手に気持ちを円滑に伝えるスキルを学ぶことで即実践に役立てる内容でした。また、専門家ということで、海外におけるNPOの啓蒙活動の事例やボランティアプログラムの開発の事例といった興味深い情報を得ることができ、参加者一同がこの研修で大いに刺激を受けることになりました。さらには、これまであまり個人的な話をしたことのなかった理事や運営委員、事務局、ボランティアと一緒にワークショップを行い、お互いをよく知る機会にもなり、一体感を生む機会となりました。

参加者：8名(内訳：ボランティア4、理事1、運営委員1、事務局2)

感想：別紙参照

添付資料／③研修会参加者募集チラシ

④参加者の感想

⑤研修レジュメ

(※郵送いたします)



《第2回きょうだいの会スタッフ研修会》

<第3回きょうだいの会>

日時：2008年9月13日(土)～14日(日)

場所：鳴子温泉、鬼首方面

概要：これまでに「きょうだいの会」に参加したことのある子ども3人と、初めて参加する子ども3人の計6人を対象に、鳴子、鬼首方面に1泊2日で「第3回きょうだいの会」を開催しました。初めて宿泊を伴うことになり、開催にあたっては、ワークショップのための事前準備や現地の下見まで、スタッフ、ボランティアがそれぞれ役割を常に意識しながら、参加する子どもたちのためという共通の思いでこの会を企画、運営することができました。鳴子、鬼首の現地の方たちに多大な協力をいただき、地元の素材を生かしたさまざまなイベントも用意することができ、子どもたちは本当に楽しそうに、子どもらしく元気いっぱい遊んでいました。また、事前に専門研修を受けたことから、子どもたちの言葉を大切に読み取ることができ、不安を持つ子どもの対応がスムーズにできたことは大きな成果でした。はじめて「きょうだいの会」に参加したボランティアは、子どもたちを見守り、支えることの大切さや子どもたちの言葉や行動、表情から読み取れる心の変化、子どもたちが発するメッセージなど、多くのことを吸収する機会となり、今後の活動につながる大きな成果を得られた会となりました。

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

参加者：ボランティア 11名 (内訳：学生3、会員1、医療関係2、その他5)
スタッフ 7名 (内訳：理事2、運営委員3、事務局2)
添付資料/⑥きょうだいの会募集チラシ (参加者向け)
⑦ワンダーポケット通信 (※郵送いたします)



<第3回きょうだいの会>
参加者記念撮影



<子どもたちが書いたボードウォークの絵>



<河北新報掲載記事>

2. ボランティア講座の開催

※※研修の目的※※

当法人が毎年開催している「チャイルドライフ支援ボランティア講座」を今年度は、組織強化の一環としてボランティアの質の向上を目指し、「ラッコハウス」および、「ワンダーポケット」の活動に興味を持つボランティアを募集し、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場として位置付け企画、開催しました。

日時：12月6日(土)
9:30~16:00
場所：仙台厚生病院
熊谷・海老名ホール

新聞掲載告知→

●医療ボランティア講座に「くろいでもらっ同族」の「ラッコハウス」法人「ワンダーポケット」の管理運営委員長の千葉哲史さんが講師を務める。6日、青葉区の仙台厚生病院で、病児の子どもを支えるボランティアを育成する「チャイルド・ライフ支援ボランティア講座」を開く。

午前9時半~午後4時。一般3000円、学生1500円(昼食代込み)。定員70人。要申込。連絡先はワンダーポケット022(27)イフ・スペシャリスト藤井あけみさん、病児の家も同じ。

情報

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

講師：講義①田澤雄作先生（国立病院機構仙台医療センター小児科 医長）
心の誕生「まなざし・おもざし ---そして言葉」

講義②千葉哲史さん（仙台かき徳 代表取締役社長・ワンダーポケット事務局長）
「もうひとつの我が家」～ラッコハウス開設まで～

講義③藤井あけみさん（千葉県こども病院、聖路加国際病院
「こどもと大人の幸福な関係」 チャイルド・ライフ・スペシャリスト）

参加者：一般参 12名
ボランティア 5名（内訳：学生3、一般2）
スタッフ 10名（内訳：理事2、運営委員6、事務局2）
新規会員：1名 ボランティア希望者：3名
感想：別紙参照

添付資料／⑧講座チラシ ⑨配布資料 ⑩参加者感想

3. ラッコハウス「ハウスマネージャー研修」の実施

研修の目的

2007年に開設した、病児と家族のための滞在施設「ラッコハウス」の管理運営は当団体の活動の大きな柱のひとつです。これまでは体制ができていなかったために、事務局が中心となってハウスの維持管理、利用者の受け入れを行ってきました。しかし、今後も継続して安定的に運営していくためには、事務局に頼らないハウスの清掃管理や利用者の受け入れなどを行う、ハウスマネージャーおよびハウスボランティアの確保・育成が急務の課題でした。そこで、自主開催のイベント時や町内会への呼びかけなどを通じて募集活動を行ってきたところ、2名のハウスマネージャー候補が見つかりました。ハウスマネージャーは利用者に直接お会いして対応することから、病児の子どもを持つ親の心理や対応する場合の注意点および「ラッコハウス」の目指すものなど、専門的な知識を習得していただく必要がありました。そこで、東京で病児と家族のための滞在施設「ファミリーハウス」を複数管理運営している「特定非営利活動法人ファミリーハウス」の協力を得て、すぐに実践で活躍いただけるよう東京ファミリーハウスの見学会および研修会を企画、開催いたしました。

<東京ファミリーハウス見学>

日時：2009年3月29日（日）11：00～16：00

場所：特定非営利活動法人ファミリーハウス 事務局
ペアレンツハウス亀戸、みどりのおうち

内容：ハウスマネージャーとして即実践力として活躍していただくため、複数のファミリーハウスを見学し、ファミリーハウスの専門的知識を習得するとともに、実際に活動しているハウスマネージャーの声を聞くことで、活動の内容および心構えなどについて学びました。また、先方の事務局の方から、ファミリーハウスの設立の経緯や現状の運営状況、組織体制や寄付などについて、さまざまな情報をいただくことができ、参加した運営委員、事務局にとっても大変に意義深い機会となりました。

参加者：5名（内訳：運営委員1、事務局1、ボランティア3）

感想：実際に東京でファミリーハウスを見学できて本当によかったと思います。スケールの大きさに驚きましたが、事務局や理事、ハウスマネージャー、ボランティアがたくさんいて、それぞれが役割を持って組織として動いているという感じでした。（Uさん）

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

感想：企業からの援助が何もしなくても向こうからやってくるという環境はすごいと思いました。仙台でもそんな風になっていけたらいいのと思いました。ラッコハウスで活かせることもあれば、ラッコハウス独自で作り上げていくこともあるのではないかと思います。(Yさん)

添付資料／⑪研修会実施案内

【東京ファミリーハウス見学・研修会】



←①NPOファミリーハウスの事務局でハウスマネージャーやハウスボランティアになる方に見てもらっているという「ファミリーハウス」の設立の経緯や設立した方たちの思いが伝わる特集番組のビデオを見せていただきました。ここで具体的なファミリーハウスの知識を学びました

② ペアレンツハウス亀戸で和洋タイプのお部屋を見せていただきました



③共有のキッチンを見学しました。企業からの食品の寄付も置いていました



④みどりのおうち（1DK）の居間でお世話になった事務局長さんと記念撮影



⑤開設準備の様子をボードに。関わる人の顔の見えるハウスづくりに共感しました



この後、ハウスマネージャーのUさんとYさんには、ラッコハウスにおいて関係規程をはじめ、ハウスマネージャーの役割や心構えについての研修を行ったほか、実際にハウスの清掃管理、利用者の受け入れの練習を行い、実践活動に入っていました。

●申請書に記載した成果目標

<新規会員募集目標>
募集目標80名

<中・長期ビジョンを話し合う>

<イベント参加者の増加>

<助成金申請の情報収集など資金確保>

<外部研修への参加>

●目標の達成度・団体に与えた効果

新規会員募集を常に意識して活動を行うとともに、理事の紹介や対外研修へ参加した際のPR、自主開催の講演会やボランティア講座を通じて募集を行った結果、6名の新規会員が集まりました。目標数には至りませんでした。新規会員募集活動を意識して活動したことは大きな成果でした。

理事、運営委員の中に役割分担の意識が生まれ、積極的に関わる意欲が感じられるようになりました。また、運営委員会では、資金繰りを含めた中・長期ビジョンについての話題が出るなど、着実に意識改革が進んできています。今後、さらに役割分担を進め、効率のよい活動ができる新体制の構築する動きに繋げていきます。

一般公開の講演会については、当日の朝に大きな地震があったにも関わらず、はじめて講師をお願いした方の効果もあって、多数の参加者がありました。その中から新規会員やボランティア希望者が集まったことは大変に素晴らしいことでした。一方、ボランティア講座の開催時には、マンパワー不足の課題が解決できていなかったため、早期計画や早期告知ができず、またボランティア募集の色が濃く出たために、イベント参加者を多数呼ぶことはできませんでした。しかしながら、ワンダーポケットの活動に賛同いただける方が多かったことは幸いでした。

助成金の情報収集はできませんでしたが、「きょうだいの会」の記事が河北新報に掲載された直後に東北楽天の山崎武司選手の後援会有志の方より活動支援金を贈呈いただくことができました。対外的な情報公開の成果と受け止めています。

事務局2名が「理事・ボランティアコーディネータ研修」に参加したほか、事務局1名が「NPOステップアップ講座」（ボラン

●申請書に記載した成果目標（続き）	●目標の達成度・団体に与えた効果（続き）															
<p><外部研修への参加>（続き）</p>	<p>ティア）に参加しました。また、そうした研修の場を借りて当団体のPRを行った結果、新規会員およびボランティアをしてくださる方と出会いました。外部研修に参加することで、ほかのNPOの活動や組織について知る機会となり、アドバイスをいただくこともできますし、情報交換や一緒に活動する機会を得ることができるなど、大変に貴重な機会となりました。今後は事務局だけでなく、理事や運営委員にもぜひ参加を推進していきたいと考えています。</p>															
<p><ボランティアの募集・育成></p> <table border="0" data-bbox="255 806 766 985"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">募集目標</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コーディネーター</td> <td style="text-align: right;">1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ラッコハウス・ボランティア</td> <td style="text-align: right;">6名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イベントボランティア</td> <td style="text-align: right;">10名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>きょうだいの会スタッフ</td> <td style="text-align: right;">5名</td> <td></td> </tr> </table>		募集目標		コーディネーター	1名		ラッコハウス・ボランティア	6名		イベントボランティア	10名		きょうだいの会スタッフ	5名		<p>ラッコハウスマネジャー2名を確保できたことは、当団体にとって最大の成果です。また、ボランティアリーダーも見付き、さっそくメーリングリストの作成やボランティア会議の準備にとりかかっております。（2009年3月27日にボランティア会議準備委員会を開催／資料⑫議事録）</p> <p>これまでイベント時のボランティアは学生を中心に募集しておりましたが、卒業をされた方も多く、今後はさらなるボランティア募集を行いながら、活動が継続できる仕組みづくりをボランティアリーダー中心に作っていく予定です。</p>
	募集目標															
コーディネーター	1名															
ラッコハウス・ボランティア	6名															
イベントボランティア	10名															
きょうだいの会スタッフ	5名															
<p><理事・スタッフ・会員が一同に介するイベントの開催></p>	<p>「ボランティア感謝会」を昨年より開催しており、理事、運営委員、ボランティアが参加し、親睦を深める機会となっています。しかし、実際には、「きょうだいの会」における研修会や東京ファミリーハウス見学会などが距離を縮める成果のある活動だったと感じています。このような機会を今後も増やしていきたいと考えています。</p>															

- 達成できない部分があった場合には、
考えられる原因や、解決に向けて必要なことをお書きください。

＜町内会でボランティア協力を募る＞

ラッコハウスを地域に根ざした活動にしていくために、地元自治会長を通じて、ラッコハウスのボランティア募集のチラシを全家庭へ回覧していただくことができましたが、その成果はまだ出ておりません。(添付資料/㊸サポーター募集チラシ)

一方、アパートのごみだしルールが守られていないといったご指摘（ラッコハウスの関係者ではないのですが）を受けたこともあり、地元自治会との協調が大切であることを改めて認識いたしました。そこで、今後は、当団体が地域の中でできることもさがしながら、協力体制や信頼関係を築いていきたいと考えております。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか

また、その際に必要なものは何ですか

最初に述べたように、「組織力の強化」は当団体にとりまして、これまで重要な課題として認識しながらも、まったく動けなかった部分でした。しかし、今回の助成事業により、組織を見直す機会や研修の機会が増えたことで、組織（人）は変わる必要があることを改めて教えていただきました。そして、その効果はスタッフの意識の中にも既にあらわれ始めており、次年度以降は、理事、運営委員を補強するとともに、役割分担を明確に行い、組織の建て直しを計る方針を確認いたしました。また、同様にボランティア組織も立ち上げ、これまですべて事務局がないと何も動かなかった体制から脱出する方向にもと動き出しております。

今後は、理事、運営委員及び活動に関わるボランティアが各自の役割を認識し、それぞれがその役割の中で積極的な活動を行えると確信しておりますが、そのために必要となるものは、多くの経験や知識を持つ専門家のアドバイスではないかと考えています。

NPO活動を進める中では、活動資金の確保をはじめ、さまざまな課題に直面しますが、中でも、ボランティアが活動しやすい環境づくりは、運営スタッフにとって大きな課題であり、そのバックアップがあることは本当に心強いことです。

また、NPOが継続し、しっかりと機能していくためには、組織の大きさ、活動の状況を把握するとともに、時には外から自分の団体を見ることも非常に重要であり、大切であります。その意味でも、今回の助成事業で得られた様々な機会は、関係者にとっては貴重な経験であり、今後ともこのような機会を増やしていきたいと考えております。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
事業費	130,000	158,076	
合計	330,000	358,076	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
講師謝金	150,000	120,000	3名分
講師交通費	75,000	51,000	2名分
研修・勉強会参加費	60,000	98,570	東京ファミリーハウス見学旅費等5名分
		5,000	外部研修参加費
		38,000	きょうだいの会参加費、ボランティア5名分（@9600×5、負担金1万円）
会員募集のためのパンフ作成費	30,000	39,746	ボランティア募集チラシも含む
その他経費	15,000	5,760	研修会案内発送費
合計	330,000	358,076	